

クラス	TU305	担当教員	小坂 啓史
テーマ	社会学的想像力から社会学的思考へ ～「生活」と「社会」との結びつきを考える～		
著書・論文	<近年の研究課題>：社会福祉の新自由主義化における<生>の社会学的理解 ◆「エイジズム」(藤村正之編『いのちとライフコースの社会学』弘文堂、2011年) ◆「介護保険制度下のケアマネジメントとレリヴァンス」(『現代と文化』第127号、2013年)		
研究課題等	◆「ケアの場における相互行為を分析するために—エスノメソドロジーの応用可能性に関する考察—」(『日本福祉大学 子ども発達学論集』第6号、2014年)		

ゼミナール概要

キーワード：社会学的想像力、社会学的思考、日常生活世界、社会問題、生活問題、社会福祉

《内容・方法について》

(1) 社会学的想像力を身につけよう

第一に、アメリカの社会学者 C. W. ミルズが提起した「社会学的想像力」を身につけていくことを目的とします。「社会学的想像力」とは、「巨大な歴史的状況が、多様な諸個人の内面的生活や外面的生涯にとって、どんな意味をもっているかを理解することができる」(『社会学的想像力』訳書 p.6) ことであるとされています。時代や社会と、私たちのふるまいや人間関係、身近な生活などがどのように結びついているのか、そうしたことを想像し考えていくこと。こうした営みは、現代社会ではとくに重要なものになってきていると考えられます。

「社会問題」と私たち自身の個人的な悩み、社会の仕組みと私たちが抱く「生き難さ」といったものが、実は常に関わっているのだという視点をもつこと、それは(子どもたちを含む)「他者」と関わって生きている私たち自身の人生、そして、社会の方向性をも見定めていくことに、深く関わることなのです。

(2) 「社会」とは? 「生活」とは?

第二に、社会学における「社会」の見かたについて考えていきましょう。社会学ではさまざまな「社会」の捉え方、考え方があります。まずはこれらの基礎的な理論についてみていき、その上で現代社会のさまざまな現象に加えて、みなさん自身が体験してきたことなどについても応用させ、思考を広げ、深めていきましょう。

(3) 社会学的研究方法を学ぼう

第三に、社会(科)学的な方法論について学んでいきます。これは、4年生時の卒論への取り組みにも関わりますが、みなさん各自の問題関心、研究テーマについて追求していく際、そもそもその研究方法についてきちんと理解していることが前提となります。研究方法にもさまざまなスタイルがあります。これらについて、その具体的な手順なども含めて理解し、用いることができるようにしていきましょう。

《方法・授業計画》

進め方は基本的にゼミナール形式です。共通文献・論文等を取り上げて、報告とディスカッションをしていきます。そして、3年生(あるいは4年生)の夏休み期間に、他大学(関東の3つの大学のゼミ)と共同で開催する合同ゼミ合宿に参加します。また、経験から学ぶという観点から、社会福祉施設等における介助・レクリエーション活動への参加も行う予定です(これらに参加することを予め念頭に置いて、志望してください)。

担当教員からのメッセージ

3年生では、まずは社会学的な専門知識を増やし、それによって「社会」のさまざまな見方、捉え方を身につけ、現実には起きている社会現象を多角的に見ていく力を養うことが重要です。その際に、現実的な実感を持って考えていけるかがキーになります。これをふまえて、自分自身の研究について構想し明確化していきましょう。**4年生**では、3年生時から徐々に自分なりに準備し、進めてきた研究の成果を出していくことが重要な課題です。大学生としての総仕上げとして、各自設定したテーマに基づき、卒業論文に取り組みます。

ゼミでは禁句があります。それは、「**わかりません**」「**同じです**」という意見(?)です(これらのバリエーションも)。わからないことがあれば、問題提起をしてみんなで話し合っただけでいいですし、また、意見が他の人と同じでも、きちんと自分の言葉で述べるのが大事です。また、その際に気をつけてほしいのですが、**意見を単純化させすぎることあまりよくありません**(→「**～にすぎない**」など)。社会現象が起こる原因などについて一言で答えられるほど、「社会」は単純なものではありません。また、この意味での単純化はただの「シニカルさ」につながり、結局何も考えていないことになってしまう恐れさえあります。

それから最後に…**わからないことや知らないことがあるのは、別に恥ずかしいことではありません**。集中しつつも**リラックス**し、ゼミに臨んでください。そのための環境作りには十二分に配慮していくつもりです。